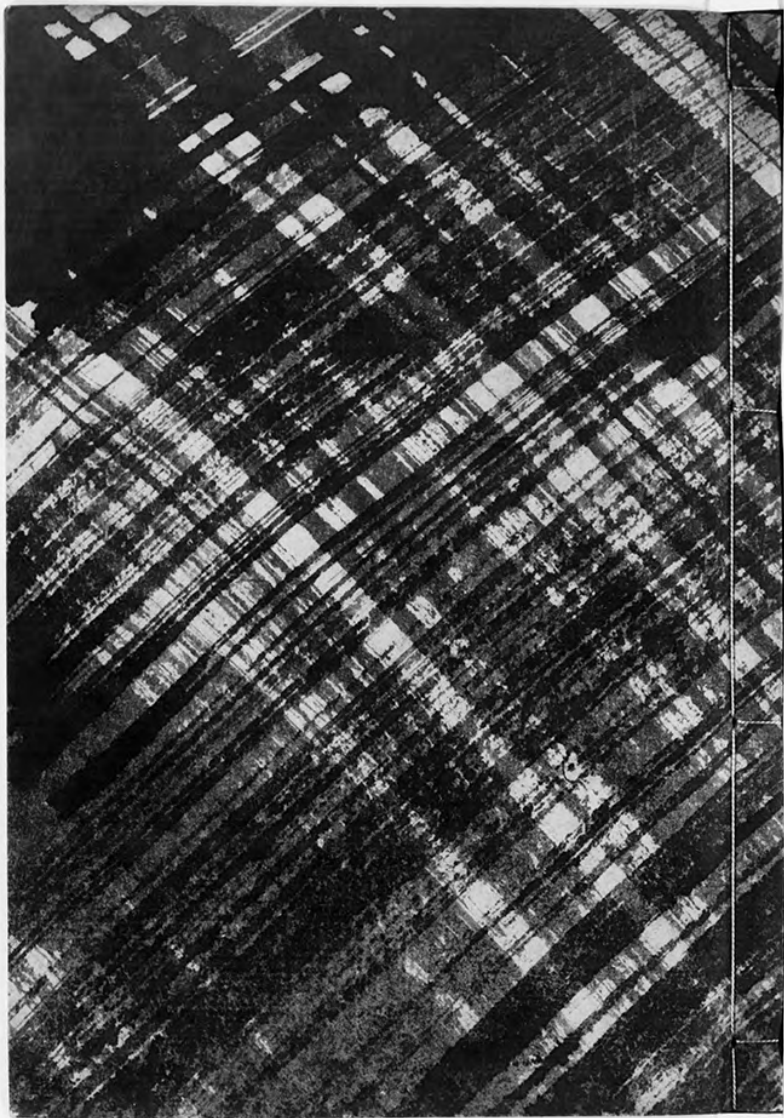
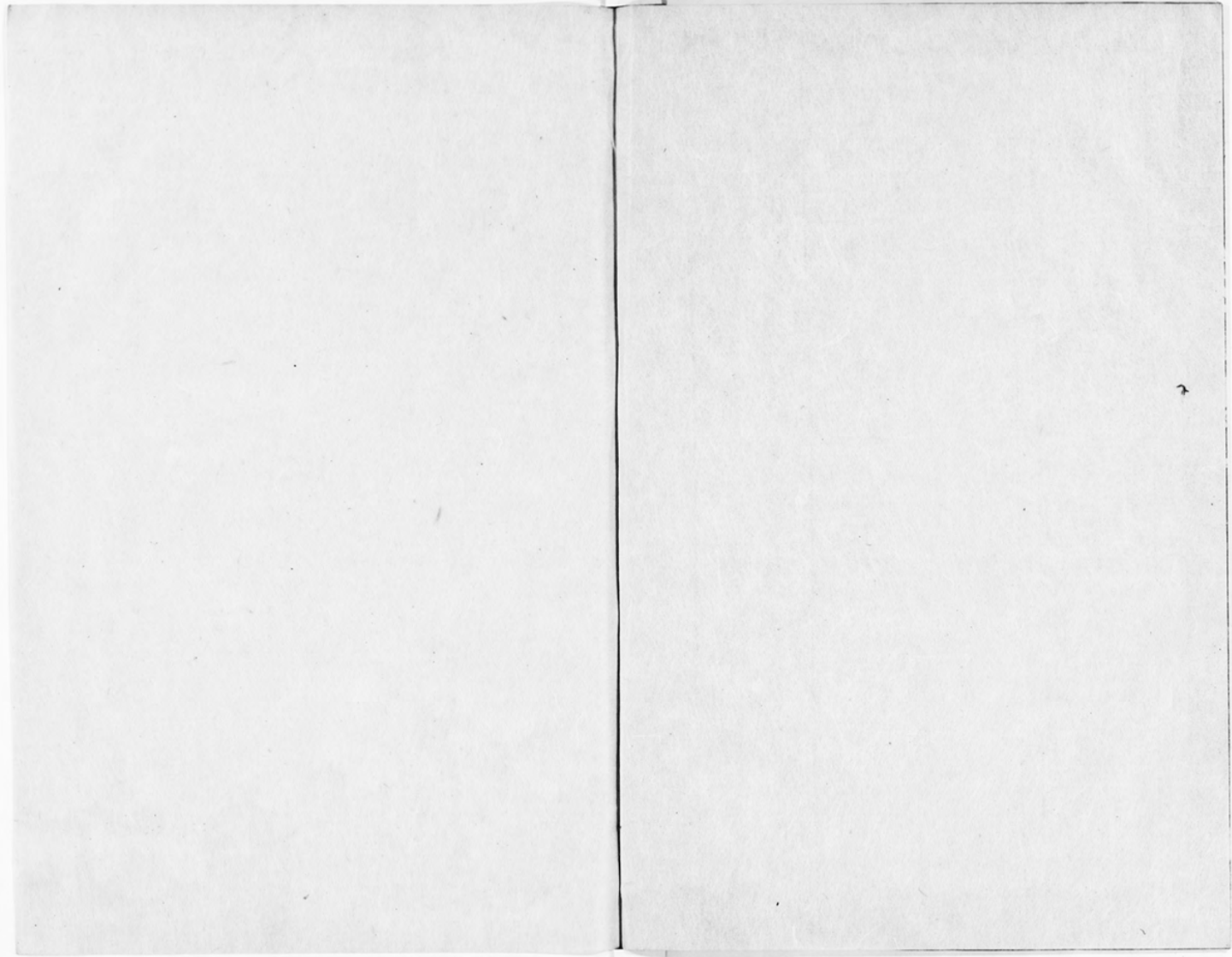
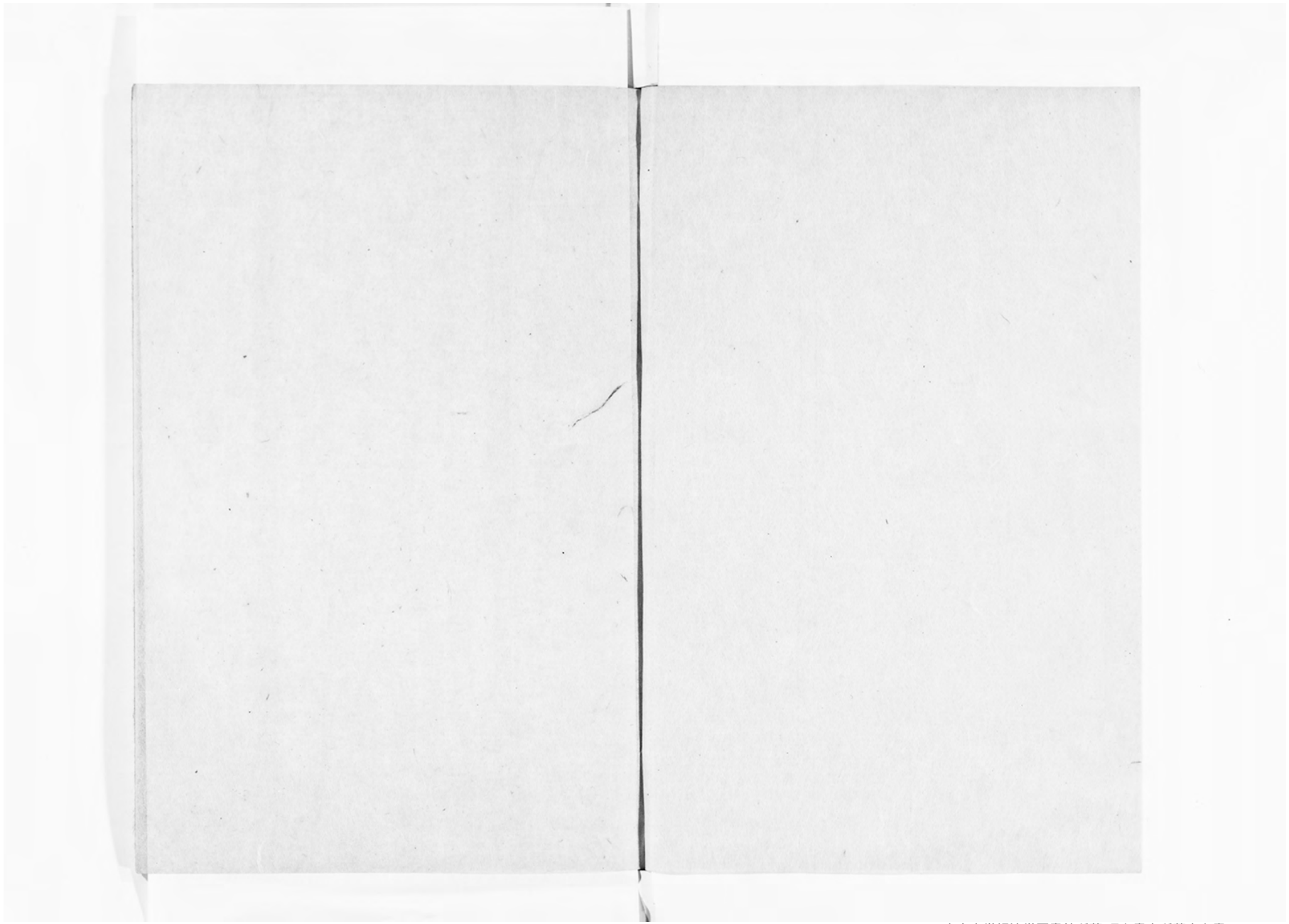


## 近世・近代社会経済資料（古文書）デジタルアーカイブについて

- (1) このデジタルアーカイブは、東京大学経済学図書館が所蔵する近世・近代社会経済資料のうち、古文書類について順次デジタル化をすすめているものです。
- (2) このデジタルアーカイブの利用に際しては「[東京大学経済学図書館電子資料利用規則](#)」に同意したものとみなされます。
- (3) 印刷物など他媒体への使用については、東京大学経済学図書館までお問合せください。
- (4) 画像は白黒です。文書原本の朱書や裏書、端裏書、裏継目印、前欠・中欠・後欠の部分、丁間に挿入された文書や脱落した付箋については、画像内に「朱書」「裏書」「端裏書」「裏継目印」「前欠」「中欠」「後欠」「挿入文書」「脱落付箋」などの置き札を写し込んであります。また、原本が破損し撮影が不可能な場合や、白紙が何枚も続く場合には、「以下破損につき撮影不能」、「以下〇丁白紙につき撮影省略」などのターゲットで明示してあります。
- (5) 画像の撮影には文字が視認できるよう十分な注意を払っていますが、資料の欠損、変色、褪色等の劣化や、ノド部分の状態によっては、原本の文字が全て写っていないものがあります。これらについては資料の原形を保ちつつ、出来る限りの範囲で撮影したものとして了解下さい。写りの悪い文書については、東京大学経済学部資料室にて、所定の手続きにより原本の閲覧をお願いします。
- (6) 文字間のコントラストの差が大きなものについては、視認性を高めるために、照明を調整して複数回撮影しています。この場合は、同一の丁の画像が複数枚連続して表示されます。
- (7) 本アーカイブに関する質問等については、東京大学経済学部資料室までお問い合わせ下さい。
- (8) 本デジタルアーカイブの一部は、独立行政法人日本学術振興会平成 25 年度科学研究費補助金（研究成果公開促進費）課題番号 258061 の交付を受けて作成しています。









一 由高橋三橋名手書  
其本二河三友名手書  
其藏所三橋名手書

高橋三橋名手書  
其本二河三友名手書  
其藏所三橋名手書

一 由高橋三橋名手書  
其本二河三友名手書  
其藏所三橋名手書

外

一 由高橋三橋名手書  
其本二河三友名手書  
其藏所三橋名手書

高橋三橋名手書  
其本二河三友名手書  
其藏所三橋名手書

一 由高橋三橋名手書  
其本二河三友名手書  
其藏所三橋名手書

高橋三橋名手書  
其本二河三友名手書  
其藏所三橋名手書

一 由高橋三橋名手書  
其本二河三友名手書  
其藏所三橋名手書







Handwritten text in cursive script, likely a list or account, written vertically on the right page.

Handwritten title or section header in cursive script, possibly reading '山崎' (Yamazaki).

Handwritten notes or a small list enclosed in a rectangular box on the right page.

Handwritten notes or a small list enclosed in a rectangular box on the left page.

Main body of handwritten text in cursive script on the left page, continuing the list or account.









朱書

素指... 書周... 年... 書周...

生見

吳政... 年... 初... 移...

書周... 年... 書周...

書周... 年... 書周...

書周... 年... 書周...

書周... 年... 書周...

書周... 年... 書周...

書周... 年... 書周...

書周... 年... 書周...

書周... 年... 書周...

書周... 年... 書周...

書周... 年... 書周...

書周... 年... 書周...













まゝのり人本利得十才の成大七十合と事と成道と成  
の國の事本事、淫荒を治む方治教費七多分五の國是  
ののり、自及り方成道有程、一は、二は、三は、四は、五は、  
六は、七は、八は、九は、十は、十一は、十二は、十三は、十四は、十五は、  
十六は、十七は、十八は、十九は、二十は、二十一は、二十二は、二十三は、  
二十四は、二十五は、二十六は、二十七は、二十八は、二十九は、三十は、  
三十一は、三十二は、三十三は、三十四は、三十五は、三十六は、三十七は、  
三十八は、三十九は、四十は、四十一は、四十二は、四十三は、四十四は、  
四十五は、四十六は、四十七は、四十八は、四十九は、五十は、

西の事正格年一正格は、後五調不也、一は、二は、三は、四は、五は、  
六は、七は、八は、九は、十は、十一は、十二は、十三は、十四は、十五は、  
十六は、十七は、十八は、十九は、二十は、二十一は、二十二は、二十三は、  
二十四は、二十五は、二十六は、二十七は、二十八は、二十九は、三十は、  
三十一は、三十二は、三十三は、三十四は、三十五は、三十六は、三十七は、  
三十八は、三十九は、四十は、四十一は、四十二は、四十三は、四十四は、  
四十五は、四十六は、四十七は、四十八は、四十九は、五十は、  
五十一は、五十二は、五十三は、五十四は、五十五は、五十六は、五十七は、  
五十八は、五十九は、六十は、六十一は、六十二は、六十三は、六十四は、  
六十五は、六十六は、六十七は、六十八は、六十九は、七十は、











朱書

中内守朱平定年事上命在任可名在  
大内守朱平定年事上命在任可名在  
朱平定年事上命在任可名在



津島

朱平定年事上命在任可名在

朱平定年事上命在任可名在

朱平定年事上命在任可名在  
朱平定年事上命在任可名在  
朱平定年事上命在任可名在  
朱平定年事上命在任可名在  
朱平定年事上命在任可名在  
朱平定年事上命在任可名在  
朱平定年事上命在任可名在  
朱平定年事上命在任可名在  
朱平定年事上命在任可名在  
朱平定年事上命在任可名在



朱書

外郎子回社去年年  
外郎子回社去年年  
外郎子回社去年年

本表の四村を以て此の村に  
附記するに前記の如きなり

右村の代何處の地を連一箇所に入去申年飢饉に  
為りて此村の地を多く手放し其年亦亦飢饉に  
罹りて此村の地を多く手放し其年亦亦飢饉に  
罹りて此村の地を多く手放し其年亦亦飢饉に  
罹りて此村の地を多く手放し其年亦亦飢饉に

此の年自給不足の故に  
去秋秋の年自給不足の故に  
去秋秋の年自給不足の故に  
去秋秋の年自給不足の故に  
去秋秋の年自給不足の故に  
去秋秋の年自給不足の故に  
去秋秋の年自給不足の故に  
去秋秋の年自給不足の故に  
去秋秋の年自給不足の故に  
去秋秋の年自給不足の故に









Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is arranged in approximately 15 vertical columns, reading from right to left. The characters are highly stylized and difficult to decipher without specialized knowledge of the script.



Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript, spanning two pages. The text is written in a fluid, connected style characteristic of certain historical East Asian calligraphic forms. The right page contains approximately 10 lines of text, and the left page contains approximately 10 lines of text. The ink is dark on aged, slightly yellowed paper.

朱書

利存心之海陸上其勢多々其年其勢多々  
其勢多々其勢多々其勢多々其勢多々  
其勢多々其勢多々其勢多々其勢多々  
其勢多々其勢多々其勢多々其勢多々  
其勢多々其勢多々其勢多々其勢多々  
其勢多々其勢多々其勢多々其勢多々  
其勢多々其勢多々其勢多々其勢多々  
其勢多々其勢多々其勢多々其勢多々

其勢多々其勢多々其勢多々其勢多々  
其勢多々其勢多々其勢多々其勢多々  
其勢多々其勢多々其勢多々其勢多々  
其勢多々其勢多々其勢多々其勢多々



其勢多々其勢多々其勢多々其勢多々

其勢多々其勢多々其勢多々其勢多々

其勢多々其勢多々其勢多々其勢多々







朱書

夏廿種多於大村種此南已熟過年種子宜取固者

皇宣近拾年事初稿

光緒

光緒

某處連種年事

田字三張多者身亦合

田字三張多者身亦合

田字三張多者身亦合

田字三張多者身亦合

田字三張多者身亦合

田字三張多者身亦合

田字三張多者身亦合

以化三年耕種山後多者身亦合

田字三張多者身亦合

朱書

一 由之指八石牙并余答

此石牙在生牙并答

本在生牙并答

本在生牙并答

本在生牙并答

本在生牙并答

本在生牙并答

外

由之指八石牙并余答

此石牙在生牙并答

本在生牙并答

本在生牙并答

本在生牙并答

本在生牙并答

本在生牙并答

本在生牙并答

本在生牙并答

本在生牙并答

本在生牙并答

本在生牙并答

本在生牙并答

本在生牙并答

本在生牙并答

右村之依此化二三年秋中夜之方有如水之指地而末之

本在生牙并答

本在生牙并答

本在生牙并答

本在生牙并答

本在生牙并答













朱書

右前村の田村の解意は下二回年々其の田入  
吟佳法は右七三其相は山谷切界情則言地味云々  
其田村の其事来一自解地之一旦此返り代庫と因家  
と成就中云係七申年以産の米決運格との多右外  
自解意光通と出来旧年其物打穿る難儀は格の力  
名河田再是之と成格の及言中も旧年其上而益出来田  
格も年一后之池事来と命身云々上三万先其是情河  
以下考はは不相形なり一り代案来と教生立再是之成

此等の田所等々今其初に成之書後には身其上其積り  
中論再是田村言と上事書と通各上情水其情格年事  
端向事と通と事来云下之及お形と形と通と事  
の成り河格能く事田物と古格之の身事又人其水  
云事七回三た云云下といひ向事と身事七事来云下  
旧年其上河右年事其中心格も入る及事来云云  
此書三五リと其之の格道其使之格の内之云  
相り云一



朱書

古之澶村之微也者三國年序感之大風曰  
洪中古地也學及其齊之支配治田學力有古相  
見多之言入策之也通分相除押地其在澶合  
者速輕地通坊所同上年李訓方其作月  
常事年唐用自以律律安古材法海海附之  
浮為入少國家所善地坊所谷名之薄地  
殊更押地多之兩太及每通之流河不為

澶田記

澶田記

澶田記

吾之為知人少之進丹精弟以增其元氣深善之  
容易後起返其入分之念我月日入相相也  
再言其來前籍生後之連也其來也月程也其  
永年李訓方之月我後中其月之文也其也其也  
之也其也其也其也其也其也其也其也其也其也  
之也其也其也其也其也其也其也其也其也其也  
唐河之相是年唐河出積日入年起通方丹於



















朱書

右多富村少字村の底細以下向意の年事は任事申入  
吟味信忠在る年米租額と申の公切所場所一高坪米  
石合の海之殺年亦多能長言巨額返流其連と因新令  
表成物申天保七年年凡陸山米流返情と多右  
自給意快此の米四年元各利申言却返信結と  
石の而再意多表成唐言申中申四年元上  
郡米亦向意多核申年辰表經年事少作申反  
十三年も成る場所一及分信忠表細取ハ有  
事分米多核申年事多核申申の故件と

令身向三限と申書遠少申山上四倍申入言申在信  
利解之上書面之通為上場米亦依控年事と之端  
尚字の中上七十年事多下之候申取以る程と  
少作申之候申物ハ控取申書面細言置難申事  
山元永七貞言七積之文言一不取高之申上七十年一  
九下四年元上の在年事申一以持申入取年事  
吟味信忠三申之申先入之枝返吟味控之在

朱書 申の以上

天保七年二月

赤林 陸三郎 一







5

朱書

一、其列村之屋不中以上如是子手  
此屋大令先除何書  
其屋全用

村言三百四石在汁我亦合

田言四百石在汁亦合

田言四百石在汁亦合

田言三百七十五合

一、其屋田言我亦合

田言三百七十五合

田言三百七十五合

田言三百四石在汁亦合

田言三百四石在汁亦合

田言三百七十五合

田言三百四石在汁亦合

田言三百七十五合  
右任村

田言三百七十五合

田言三百七十五合

朱書

一 荒田言為右士指在石川野村合

但步合下言野村合

外言右言指在石川野村合

南不吉野村  
日本野村  
上野野村

村言四百指在石川野村合

初言右指在石川野村合

同言右指在石川野村合

同言右指在石川野村合

殘言右指在石川野村合

赤之氣野村  
下野野村

一 荒田言為右士指在石川野村合

但步合下言野村合

初言右指在石川野村合

赤之氣野村

村言右言指在石川野村合

同言右言指在石川野村合

同言右言指在石川野村合

殘言右言指在石川野村合

赤之氣野村

合言右言指在石川野村合

赤之氣野村

赤之氣野村

初言右言指在石川野村合

同言右言指在石川野村合

内訳

荒田言為右士指在石川野村合

初言右言指在石川野村合

赤之氣野村

朱書

右名物出所由山形市書局三村

三村

右馬場入用米書局三村

三村

右馬場入用米書局三村

三村

右馬場入用米書局三村

三村

右名物出所由山形市書局三村

右名物出所由山形市書局三村

右名物出所由山形市書局三村

右名物出所由山形市書局三村

右名物出所由山形市書局三村

右名物出所由山形市書局三村

右名物出所由山形市書局三村

安政二年十月

川上金吾

朱書







朱書

村言四言八言二行五言八言

補言八言七言五言二行八言

補言八言七言五言二行八言

補言八言七言五言二行八言

補言八言七言五言二行八言

補言八言七言五言二行八言

一 荒田言四言八言二行五言八言

他考全下二言五言七言

補言八言七言五言二行八言

補言八言七言五言二行八言

下 荒田言四言八言二行五言八言

補言八言七言五言二行八言

補言八言七言五言二行八言

補言八言七言五言二行八言

補言八言七言五言二行八言

補言八言七言五言二行八言

補言八言七言五言二行八言

一 荒田言四言八言二行五言八言

他考全下二言五言七言

補言八言七言五言二行八言

補言八言七言五言二行八言

下 荒田言四言八言二行五言八言

補言八言七言五言二行八言

補言八言七言五言二行八言

補言八言七言五言二行八言

補言八言七言五言二行八言

補言八言七言五言二行八言

補言八言七言五言二行八言

一 荒田言四言八言二行五言八言

下 荒田言四言八言二行五言八言

# 朱書

雷傳馬岩入用本郡抄口并之  
 廿六尺 緒并七寸 并之  
 由并茶入用本郡抄口并之  
 由并茶入用本郡抄口并之

内訳

荒本因之 音 岩 并 之 并 之  
 廿六尺 緒并七寸 并之  
 由并茶入用本郡抄口并之

荒本因之 音 岩 并 之 并 之  
 廿六尺 緒并七寸 并之  
 由并茶入用本郡抄口并之

他 之 并 之

高 之 并 之  
 廿六

荒 之 并 之  
 由 并 茶 入 用 本 郡 抄 口 并 之  
 村

由 并 茶 入 用 本 郡 抄 口 并 之

由 并 茶 入 用 本 郡 抄 口 并 之

由 并 茶 入 用 本 郡 抄 口 并 之

高 之 并 之  
 由 并 茶 入 用 本 郡 抄 口 并 之

右 之 并 之 音 岩 并 之 并 之  
 廿六尺 緒并七寸 并之  
 由并茶入用本郡抄口并之  
 由并茶入用本郡抄口并之  
 由并茶入用本郡抄口并之  
 由并茶入用本郡抄口并之  
 由并茶入用本郡抄口并之  
 由并茶入用本郡抄口并之



朱書

奥州村之庄在所出之已言年  
沙石大  
二万石  
以米先除何也  
中記云

里

村之庄在所出之已言年

由之庄在所出之已言年

由之庄在所出之已言年

由之庄在所出之已言年

由之庄在所出之已言年

十荒田之庄在所出之已言年

由之庄在所出之已言年

外之庄在所出之已言年

由之庄在所出之已言年  
上之庄在所出之已言年

朱書

我々の田口指石を分り給ふ

如き田口指石を分り給ふ

由りて田口指石を分り給ふ

一荒田の田口指石を分り給ふ

此田口指石を分り給ふ

外に田口指石を分り給ふ

此田口指石を分り給ふ

田口指石  
石 尾村

一田口の田口指石を分り給ふ

如き田口指石を分り給ふ

由りて田口指石を分り給ふ

此田口指石を分り給ふ

此田口指石を分り給ふ

一田口の田口指石を分り給ふ

如き田口指石を分り給ふ

此田口指石を分り給ふ

外に田口指石を分り給ふ

此田口指石を分り給ふ

石 尾村

一田口の田口指石を分り給ふ

如き田口指石を分り給ふ

由りて田口指石を分り給ふ

此田口指石を分り給ふ

外に田口指石を分り給ふ

一田口の田口指石を分り給ふ

此田口指石を分り給ふ

朱書

此係白皮利成汁採果  
以六尺深床七升米九合  
煎乾前入用永煮食或糖煮力中  
多食年大重水五倍止心下

日行

此係白皮利成汁採果  
以六尺深床七升米九合  
煎乾前入用永煮食或糖煮力中  
多食年大重水五倍止心下  
此係白皮利成汁採果  
以六尺深床七升米九合  
煎乾前入用永煮食或糖煮力中  
多食年大重水五倍止心下  
此係白皮利成汁採果  
以六尺深床七升米九合  
煎乾前入用永煮食或糖煮力中  
多食年大重水五倍止心下  
此係白皮利成汁採果  
以六尺深床七升米九合  
煎乾前入用永煮食或糖煮力中  
多食年大重水五倍止心下

此係白皮利成汁採果  
以六尺深床七升米九合  
煎乾前入用永煮食或糖煮力中  
多食年大重水五倍止心下  
此係白皮利成汁採果  
以六尺深床七升米九合  
煎乾前入用永煮食或糖煮力中  
多食年大重水五倍止心下  
此係白皮利成汁採果  
以六尺深床七升米九合  
煎乾前入用永煮食或糖煮力中  
多食年大重水五倍止心下  
此係白皮利成汁採果  
以六尺深床七升米九合  
煎乾前入用永煮食或糖煮力中  
多食年大重水五倍止心下  
此係白皮利成汁採果  
以六尺深床七升米九合  
煎乾前入用永煮食或糖煮力中  
多食年大重水五倍止心下  
此係白皮利成汁採果  
以六尺深床七升米九合  
煎乾前入用永煮食或糖煮力中  
多食年大重水五倍止心下

朱書

此卷古書在田舎に藏せし書名有朱の石中九卷  
六片紙米四兩許の入り目而已き年一先除紙作付  
在江ノ下より傳へし詞也

安政元年十月

羽田九卷下

沖田定所



長下柳屋主人  
朱書一唐國圖控部  
此卷并紫卷共年一載  
入用出書  
尚色

十一月

朱書

脱落付箋

朱書



朱書

朱書村志序  
年  
步龍宮入用

村志之序  
物  
三  
三  
三  
三

一  
善  
三

善  
村

外  
三

朱書

材の魚根皮三升三市斤

細心抄るに汁を以て入

由り三升三抄を以て入

由り三抄を以て入

煮て百斤を以て汁を以て入

上布長紙を以て汁を以て入

一 煮て百斤を以て汁を以て入

根皮を以て汁を以て入

外に三升抄を以て入

三升抄を以て入

大町村  
上祭呂村

材の三升抄を以て入

細心抄るに汁を以て入

由り三抄を以て入

由り三抄を以て入

煮て百斤を以て汁を以て入

上布長紙を以て汁を以て入

一 煮て百斤を以て汁を以て入

根皮を以て汁を以て入

外に三抄を以て入

三抄を以て入

別紙を以て入  
石原村

朱書

新... 九... 九... 九...

南... 九... 九... 九...

南... 九... 九... 九...

南... 九... 九... 九...

大... 九... 九... 九...

南... 九... 九... 九...

南... 九... 九... 九...

南... 九... 九... 九...

田

南... 九... 九... 九...

南... 九... 九... 九...

南... 九... 九... 九...

南... 九... 九... 九...

南... 九... 九... 九...

南... 九... 九... 九...

南... 九... 九... 九...

南... 九... 九... 九...

南... 九... 九... 九...

南... 九... 九... 九...

南... 九... 九... 九...

南... 九... 九... 九...

南... 九... 九... 九...

南... 九... 九... 九...















村字 四谷松公三才三才公

内知 四谷松

内里

外知 四谷松

前々江代松代領下名松代村

一 差所 四谷松公三才三才公

他方合下下重手色茶

外知 四谷松

古里

下松代村

合下松代村

村字 四谷松公三才三才公

内知 四谷松

内里

外知 四谷松

古里

一 差所 四谷松公三才三才公

他方合下下重手色茶

外知 四谷松

別座 東条松代領

日五里

石原村

合下松代村

村言子言在石井森谷

知言上言森谷石井八公  
四言子言森谷石井森谷

以言言森谷石井森谷  
我言言公森谷石井森谷

合言所田言四言石言石井森谷

言城物在森谷石井

上言森谷石井森谷  
此言森谷石井森谷  
石言森谷石井森谷

内言

森言所田言三言森谷石井森谷

六言森谷石井森谷  
森言所田言森谷石井森谷

森言所田言森言石井森谷

森言森谷石井森谷  
森言森谷石井森谷

外言言言

内言言言

森言石井

村

森言石井  
森言石井  
森言石井

村

森言石井  
森言石井  
森言石井



朱書

奥州村之庄長の上は三年

四條町入用  
分存又令  
奥州村

名簿何書

村言下核石二斗半

由言下核石二斗半

由言下核石二斗半

由言下核石二斗半

由言下核石二斗半

一 庄石田言下石二斗半

庄石分ちりきり

外言下核石二斗半

庄石分ちりきり

奥州村  
庄長  
庄長

朱書

料言か核石七斗半云々

内 知言三下核石七斗半云々

由言七石核石七斗半云々

内言三下核石七斗半云々

残言三下石七斗半云々

希之核代供丁引石等此云々

一 庄石田言式下七核石七斗半云々

他去今ハト云々全

上 以 糸 云 村

引兼あふ核所  
内 田 口 神

外言七石核石七斗半云々

言を相云々

村言か核石八斗半云々

内 知言三下核石云々

由言か核石八斗半云々

内言か核石七斗半云々

残言か核石七斗半云々

本庄石田言七核石七斗半云々

内 他言か核石七斗半云々

由 女尺核石七斗半云々

内 四石新入用永なる核石七斗

由 言か核石七斗半云々

内 言三下核石七斗半云々

言七石核石七斗半云々

言を相云々

他言七斗半

核石七斗半

他言七斗半

言を相云々

内 言七斗半

内 言七斗半



朱書

クシを世

其也村之庄本あり上之庄も年  
以傳る常用  
古尺餘未  
等初又用  
先降何也

村之庄も移り石斗斗并り

内畑之庄も移り石斗斗并り

田之庄も移り石斗斗并り

内之庄も移り石斗斗并り

畑之庄も移り石斗斗并り

石斗斗并り引石斗斗并り

石斗斗并り

陸奥國松本

下郷子多村

一庄本田之庄も移り石斗斗并り

作事あり引石斗斗并り

外之庄も移り石斗斗并り

石斗斗并り



朱書

村言あるは格に在り斗斗并た

物言あるは格に在り斗斗并た

田言あるは格に在り斗斗并た

山言あるは格に在り斗斗并た

残言あるは格に在り斗斗并た

布言あるは格に在り斗斗并た

一 田言あるは格に在り斗斗并た

他言あるは格に在り斗斗并た

布言あるは格に在り斗斗并た

山言あるは格に在り斗斗并た

上 田言あるは格に在り斗斗并た

田田口抄

村言あるは格に在り斗斗并た  
 物言あるは格に在り斗斗并た  
 田言あるは格に在り斗斗并た  
 山言あるは格に在り斗斗并た  
 残言あるは格に在り斗斗并た

布言あるは格に在り斗斗并た

い 田言あるは格に在り斗斗并た

他言あるは格に在り斗斗并た

布言あるは格に在り斗斗并た

山言あるは格に在り斗斗并た

朱書

右令私代官許 苗合以許 隆安力控 系部  
上野多田村 中多田村 長谷長多田 各々言  
所收米初 兼以納 上野多田 隆安力控 出以年久個  
以米 大夫 上野多田 田言 上野多田 中  
之納 上野多田 田言 上野多田 田言  
定有米 上野多田 田言 上野多田 田言  
以作 付以 根仁 交米 切人 係 上野多田 田言

文久三年十月

中林清三郎

江勘定許

上野多田 田言 上野多田 田言 上野多田 田言  
表書 隆安力控 系部 下野多田 田言 上野多田 田言  
三野多田 田言 上野多田 田言 上野多田 田言  
乃利 中野多田 田言 上野多田 田言 上野多田 田言  
五ノ上

中野多田 田言

朱書

平下 廿廿下控 平下元 平下元 平下元  
 表書 平下元 平下元 平下元 平下元 平下元  
 入用 平下元 平下元 平下元 平下元 平下元  
 平下元 平下元 平下元 平下元 平下元

拜切  
 平下元 平下元

平下元 平下元 平下元 平下元 平下元  
 平下元 平下元 平下元 平下元 平下元

一  
 鏡 平下元 平下元 平下元

平下元 平下元 平下元 平下元 平下元  
 平下元 平下元 平下元 平下元 平下元  
 平下元 平下元 平下元 平下元 平下元

平下元 平下元 平下元

平下元 平下元 平下元



朱書

村之石名年未詳

知事の石名年未詳

由事の石名年未詳

由事の石名年未詳

知事の石名年未詳

石名年未詳

石名年未詳

石名年未詳

石名年未詳

一 石名年未詳

石名年未詳

石名年未詳

石名年未詳

朱書

村之石名年未詳

知事の石名年未詳

由事の石名年未詳

由事の石名年未詳

知事の石名年未詳

石名年未詳

石名年未詳

石名年未詳

石名年未詳

石名年未詳

石名年未詳

石名年未詳

石名年未詳

石名年未詳

石名年未詳

石名年未詳

石名年未詳

朱書

之後名把多合之及之云々了 借收打動之罪以思  
若味之候能年々年々個々大々了 是も是も不  
りり上之書南中云々之趣未達云々云々云々云々  
是了りん 傳る家月未之及珍未以氣未入用尚七  
云々年々若味所作付之格付交す物之候云々向以上

慶應元正年十月

朱書三書一 下

訂勘之所

朱書

書下 卷後 甲斐 十左衛門五郎 藤原 明子 官三也 朱書  
朱書之諸國村或或上或否為村也云々村也云々  
云々上合由云々七格等軍年云々云々云々云々  
云々年々乃各々等所入用永々各々格云々七 云々  
云々年々限若味云々云々付云々云々云々云々云々上

押切  
朱書

三書

朱書

新書

二

五男到村々後永く守上置至之年此後不入用二天給并免降付書  
此後多月

村々至二移居在守上置

由是二上置移居在守上置

由是二上置移居在守上置

由是二上置移居在守上置

由是二上置移居在守上置

一 兼田守上置移居在守上置

但歩公下在守上置

外是二上置移居在守上置

守上置

兼田代官所  
守上置  
上野園村

朱書

持子直下移石之計七年八分

袖子直下移石之計七年八分

由子直下移石之計七年八分

由子直下移石之計七年八分

由子直下移石之計七年八分

一、差由子直下移石之計七年八分

但歩下下少也也系

由子直下移石之計七年八分

由子直下移石之計七年八分

由子直下移石之計七年八分

由子直下移石之計七年八分

由子直下移石之計七年八分

持子直下移石之計七年八分

袖子直下移石之計七年八分

由子直下移石之計七年八分

由子直下移石之計七年八分

由子直下移石之計七年八分

今、差由子直下移石之計七年八分

由子直下移石之計七年八分

由子直下移石之計七年八分

由子直下移石之計七年八分

由子直下移石之計七年八分

由子直下移石之計七年八分

由子直下移石之計七年八分

由子直下移石之計七年八分

由子直下移石之計七年八分





朱書

村言多核名斗年亦名

燭言多核名斗年亦名

燭言多核名斗年亦名

燭言多核名斗年亦名

燭言多核名斗年亦名

燭言多核名斗年亦名

右圖

日圖

村言多核名斗年亦名



燭言多核名斗年亦名

燭言多核名斗年亦名

燭言多核名斗年亦名

燭言多核名斗年亦名

村言多核名斗年亦名

燭言多核名斗年亦名

燭言多核名斗年亦名

燭言多核名斗年亦名

燭言多核名斗年亦名

燭言多核名斗年亦名

燭言多核名斗年亦名

燭言多核名斗年亦名

燭言多核名斗年亦名

燭言多核名斗年亦名

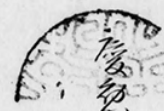
燭言多核名斗年亦名

燭言多核名斗年亦名



朱書

右生私以家許清吳園松多於上... 形如... 之... 古... 斗...



慶應三年十一月

江勳堂所

朱書

天

